

平成27年度第3回いの町総合教育会議

1、日時：平成28年2月22日（月）午前9時～

2、場所：いの町役場本庁舎401会議室

3、参加者

町長 塩田 始

【教育委員会】

委員長 山本 眞壽

同職務代理 日向 國雄

教育委員 渡辺 勝喜

教育委員 濱田 ゆかり

教育長 藤岡 孝雄

【事務局】

総務課副参事 金子 剛

教育次長 山崎 泰代

教育事務所長 川村 孝子

事務局次長補佐 澁谷 幸代

4、会議に付すべき議題

1、教育委員会の課題及び取組みについて（進捗状況）

2、その他

会 議

町 長 : 今の教育委員会というところの流れが総合教育という事で皆さん方のお知恵を拝借しているところでございますが、今回は教育委員会の課題及び取り組みについての進捗状況を語っていただけるという事でございますので、またその進捗の度合いに応じたご意見を賜れば幸いかと思います。
どうぞよろしくお願いいたします。

土 居 : それでは早速議事の方に入らせていただきたいと思います。議事の(0:48)ですが、先ほど町長のあいさつの中でもございましたが、教育委員会の課題及び取り組みについてという事で、前回第2回の時、課題及び取り組みについてご説明させていただきましたが、今回はその進捗状況という事でご報告をさせていただきます。
教育次長よろしくお願いいたします。

次 長 : おはようございます。

私の方から教育委員会の課題と取組、第2回の際にご説明させていただいた分について、今日現在の進捗状況を皆様方の方にご報告を致します。

まずこの横長のカラー刷りの4枚綴りの資料をご覧ください。

大きくテーマとして「子供たちの学びの環境整備」それから「子供たちのより良い育ちへの支援」そして「中山間地域における園、学校の存続」という大きなテーマがありまして、その中の目標施策として現状課題、取り組みといったものを前回ご説明させていただいていました。この施策について現在の進捗状況を順次述べさせていただきます。

まず、子供たちの学びの環境設備の中の施策の①ですが専門的職員活用による役割分業とそれから教職員等が本来の職務に専念できる体制構築、これがなかなかうまくいっていないということでの課題がございました。

現在の進捗状況ですが、次年度に向けて、園児、児童、生徒の抱える課題を早期に把握し適切な支援が実施できるよう体制の見直しを事務局の中でも行っています。

事務局の中に子育て支援センターや教育支援センター、そして教育研究所、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーさまざまな立場で専門的な方々が支援を行っていただいておりますが、なかなかその連携が円滑に、支援が進むという事が難しいこともありまして、それらを今、教育委員会全体の中で、園、学校を含めまた保健福祉課も含んでの連携強化の体制づくりを見直してい

るところです。

28年度からは新たな体制で行けるのではないかと、人数的には変わらないのですけれども、連携の方法を今、見直しているところです。

それからスクールカウンセラーの適切な人材配置については、担当の方から県教委の方に強く要望をしているところです。

次に3の学校事務の集合化、共同化でございます。学校事務の共同化は平成28年度から伊野中学校を拠点校として実施する予定でございます。現在準備を進めているところで予算の方も先日、査定を受けまして何とかいただけるようになっております。

月に4回、1週間に1回くらいの程度で事務員さんが集まってきて総合共同実施を行います。うち4週目、1か月のうちの4週目は事務の内容から2つにチームに分かれて実施をしようという事になっています。伊野地区とそれから吾北、本川の2チームで行うというように考えています。

学校の中で一人職場である事務職員の組織化を行うことで学校事務の均質化、適正化及び町全体における学校事務の効率化や簡素化を図ります。また今後増加することが予想される若手職員の早期の事務処理能力を向上させる体制づくりも構築していきます。

また、共同実施により学校教職員全体の負担軽減の方法を見出していきたいというふうに思っています。

4番目です。県費負担町職員町雇用の関係職員の適切な配置でございます。平成27年度は町雇用では特別支援教育支援員が26名、擁護支援員1名を配置いたしました。28年度は特別支援教育支援員24名、擁護支援員1名の雇用を予定しています。特別教育支援は2名減ってはいますが教育委員会としてはこの支援員は増やすという方向ではなく、学校が落ち着いて少しずつ減っていくという事も一つの目標にしています。28年度からは菊地先生をお招きしての授業も始まりますので、学校の方には特別支援教育支援員さんに頼らず学級経営ができるような教員の養成といったことも校長先生方の方にはお願い、ご理解ご協力いただくようお願いをさせていただいているところでございます。

擁護支援員1名は本川の長沢小学校に1名と考えています。これは3年目継続の事業です。

5番目にメディア依存対策によるいじめ、不登校、非行発生の予防ですが、子供たちを取り巻くトラブルの防止、スマートフォンが発達段階の子供たちに与える影響を正しく理解するために、学園、学校において家庭教育基盤形成事業を活用した講演会を保護者、児童、生徒を対象に実施いたしました。

28年度もこれは継続実施するように校長先生、園長先生の方にはお願いをし

ていて、現在年間計画の中に組み込んでいただけるようお願いしているところでございます。

続いて2枚目ですが、保育施設と教育施設の老朽化に伴う改修と改築、耐震改修です。

平成27年度に実施した事業をこちらの方に並べてございます。

次年度にも繰り越しして行う事業もこの中にはたくさんございますが、また来年度保育園の耐震工事も入ります。保育園はI S値が低いものから順番に川内保育園が28年度、そして29年度に八田保育園と神谷保育園の東園舎を予定しています。

川内保育園と八田保育園のI S値はかなり低くて全体的な改修工事が必要ですので改築という事にはならず改修にはなりましたが、改修の方向で行っていますけれどもその場合には川内保育園の園児さんは何らかの手段で他の園に移らなくてはいけないと考えています。たとえば川内保育園の園児さんが八田保育園に行く、または八田保育園の場合は逆、川内保育園に行くかあいの保育園に行く、そして神谷保育園の場合は東園舎のみですので西園舎で保育はできるかと考えています。工期は3ヶ月くらいの程度というふうに担当からは聞いていますので、これからその内容を詰めていかななくてはならないと思っております。

続いて教育委員会事務局保健福祉課の連携した包括的な子育て支援でございます。子育て支援といった分野では教育委員会と保健福祉課にまたがって双方が協力、連携しながら実施していかなければいけない事業はたくさんございます。母親の心が安定した出産、育児及び虐待予防、発達障害(9:05)行動防止といった事を目的とし妊娠期からの早期支援が可能となるためにすこやかセンターへの移転も含めて施設の改修を検討してまいりました。

協議の結果平成28年度には現在の健康センターの方を改修してすこやかセンターへの移転というのは困難なことがありましたので、健康センターを改修しまして、妊婦や0歳児の母親ルームを開室して教育委員会のなないろハート事業と保健福祉課のパパママファミリー教室事業を組み合わせた先進的な充実事業を実施してまいりたいと思っております。

母子手帳交付時の機会に積極的有効な働きかけを行いより多くの方に子育て支援センターを利用していただくように働きかけをします。

子育て親子を見守る子育て地域ボランティアの育成については子育て支援ボランティア団体であるグーチョキパーの会員が減少傾向にはありますが、現状では事業実施時の地域の託児ボランティアの確保は可能な状況ではございます。ただ今後利用者が増加した場合には不足することも考えられることから、ボランティアの確保及び育成に継続して取り組んでいきたいと考えています。

子育て支援センターの信頼が持てる関わりを通して地域ボランティアへの意識向上もお母さん方には期待できるのではないかと考えております。

次のページに移りまして、子育て支援の中でのメディア依存子育ての注意喚起です。

子供たちを取り巻くトラブルの防止、スマートフォンの関係については先ほど述べた通りでこれは再掲になっております。

下の方ですが子育て支援センターではメディアにあふれる情報に頼らず正しい子供理解による安定した子育てが行えるよう継続した支援を行っています。現在メディアに依存してお母さんたちがスマホで子育てを学んでいるといったような、周りに支援者がいないような方々はそのような子育てが多くあるように聞いてますけれども、やはり子育て支援センターで正しい子供理解といった事を支援していきたいというふうに考えております。講演会も実施しておりますが、継続して28年度も実施いたします。それから図書館の方では子育て支援の様々な場面に、たとえば子育て支援センターそれから健診そしてのぞみ教室であったり児童会といったところにも図書館の方に出て行っていただいておりますけれども、「右手のスマホを右手の図書に」といった言葉を合言葉にして働きかけを行っています。

続いて保育士、幼稚園講師の適切な人員配置については平成28年度から5年以上勤務する保育士さんの臨時職員の賃金アップによる処遇改善を実施することになりました。5年間継続してこの町で働いてくださった方はこれまで月額が161,700円でしたが、その方が月額178,500円にアップされるようにしていただきました。これだけでもなかなか保育士の確保といったところは困難なところがありますので、いろんな呼びかけとかですね、ハローワークへの雇用の求人といったところを積極的に行っていきたいと考えております。

続いて、福祉観点からの児童生徒支援です。

平成27年度は、短期間ではございましたが、町担当職員を高知県中央児童相談所と併任させまして実務労力の向上を図りました。平成28年度は全国レベルの研修会参加も本人の希望により積極的な参加をしていただけるように予定しております。個別相談援助への強化対策も課題の一つでございました。今後市町村の対応が増大することが想定されるため専門的な職員体制整備に取り組んでいかなければならないと考えております。

すみません、放課後児童会支援員の確保が抜かりました。下から3つ目です。申し訳ございません。この確保については平成28年から常勤の主任支援員を配置するようにしております。学校、教委ほかの児童会との連携や支援員の統括を行いベクトルを合わせたより良い児童の保育が可能となります。児童会には子供さんたちの一番素の状態が見えるような状況があります。家庭、学校ではなか

なか子供さんたちは自分たちをさらけ出すことができず、ストレスもたまった状態の中で、児童会ではのびのびと過ごしてはいただいておりますが、その中に多くの課題が見えており、支援員さんたちも大変御苦勞されているところです。そういった部分も学校や様々なところと連携をしながら、情報共有しながら子供さんを理解して、安全安心な児童会の運営に努めていきたいと考えております。

次のページに移ります。

中山間地域における学校、園の存続については川村所長の方からお願いいたします。

川村所長：おはようございます。本川、吾北地域の現状についてお知らせいたします。

1の園児確保。特色ある園づくりというところで、本川へ吉保育園におきまして、地域のニーズにこたえて4月から1歳児の受け入れを開始することといたしました。現在対象児は3名おり、1名が希望を予定しております。また、吾北地域の方で勤務の関係で1名問い合わせもあっておりまして2名程度入園が増加することとなるかと思っております。

つづきまして、児童生徒の確保というところで、特に本川地域の児童生徒の減少というところが大変危惧されているところでございますが、本川地域では地域での話し合いの場がなく現在の所、進展は見られておりません。(16:43)の開かれた学校づくりを行っておりますが、学校等での取り組みは充実したものではございますけれども、会議についての出席者も少なくなっており、活発な意見交換もなくなっているような現状です。これについての改善が必要かと考えております。

3番の安心安全な学校運営の確保という事で、教育改善、人事確保になってきますが、県の人事異動によるところも大きいですが、長沢小学校の擁護支援員さんにつきまして、町雇用の予定で動いております。来年度は特別支援学級はできますが、これまで保護者との話し合いを持った結果、学校と協議して現在の支援員さん、特に資格もございませんが継続して雇用していただく、雇用するというところが一番いいのではないかとこのところ現在動いております。

4番の休校休園中施設、教育施設の有効活用というところで、下八川児童館の利用について下八川地域出番会議の中で、地域住民と話し合いをしまして、児童館としての役割を重視した子供から高齢者まで一緒に集える場づくりを検討しました。合わせて地域の方に環境づくりをしてもらうことにして、今後その結果、課題等が出てきましたら更なる方向性を検討していくというところで、まずはそういう取り組みをしていくことから始めようという事になりました。

休校、休園中施設、教育施設等の借地の整理につきましては、少しずつ整理をしている状況で、地権者と協議し、小川幼稚園跡の借地の返還を3月末を以って予定しております。また来年度予算で、上八川幼稚園を取り壊し、借地返還を予定しております。

以上です。

金子：はい、以上が進捗状況の報告になります。何かご質問等ありましたらよろしくお願いたします。

山本委員長：すみません。

金子：はいどうぞ。

山本委員長：ご苦労様です。よくわかりました。

5年以上勤務する臨時職員の賃金アップ、この対象者は何名いますか。

次長：勤続5年の職員数、あ、対象者数。

現在まだ来年度の保育士を募集しているところですので、人数が何人になるのかというところは確定はしておりませんが、

山本委員長：予測はできるでしょう。5年だから、今現在4年までの勤続をしてたら来年雇用が発生すればで、予測はできるのではないのでしょうか。

次長：予測はできます。

：そうしたら、そのことをちょっと疑問に思いました。

次長：後程お答えさせていただきます。

山本委員長：それと、前後しますけれども、2枚目の安全安心な施設、耐震の所ですが、川内と、あの特に川内保育園なんかは遠くに行かなくても、川内小という隣接の小学校の空き教室を使用することは不可能ですか。検討なさいましたか。このことについては。

教育長：はい、現実問題として川内小学校に今現在空き教室はございません。というのも放課後児童会ですら現在図書室で開放していますので、空き教室の問題からして

も、それから園と小学校の教室 (21:37) の形態からしても困難であると判断したところです。

山本委員長：ありがとうございます。

金子：他にございませんか。

山本委員長：引き続きで申し訳ございませんが、最後のはしのページの中山間地域、児童生徒の確保の進捗状態の所ですが、本川地区では地域での話し合いの場がなく云々となっておりますが、ここは地域の話し合いはないことはないけれどもきちっとそのことは会としての体をなしてないという事と、何か地域自身の方の情報の共有があっても諦め感、疲弊しているような実態じゃないかと私は認識いたしましたがいかがでしょうか。それについては他の、何か同じメンバーで、いつも同じメンバーで、同じ顔で同じことを言ってるからもう打破することが、問題打破につながらないのであって、どこかほかから新しい知恵なり意見が必要ではないかなと実感いたしました。

以上です。

教育長：はい、これまでもやはり児童の減少というのは、誰しものが不安に抱いている問題ではあるのですが、それをちょっと教育委員会の方で話し合いをするかという事で旗を掲げるというのはこれまでも話し合いをしないといけないんじゃないかというのは今までも上がってきたことはあるのですけれど、それをすると、統合とか、そういう問題に、スピードを速くしてしまう可能性もあるというような意見も出たというか、教育長たちもいろいろ話を伺ったこともありまして、それでま、そのあたりはちょっとこう憂慮しているというか、それで今の現状ではそういう進展もないままに、で、保護者からPTAの方からも、そういうことだという意見も実際は上がってきておりませんので、皆さんそれぞれに危惧はしているのですが、なかなかそれが実体としてあまり話し合いの方向には、提案とかそういうことも、一応その留学制度を小学生から、小学生高学年からという意見は住民の方からいただいたことはあるのですが、なかなかその話し合い的には進んでおりません。

渡辺委員：本川地域の閉校であるとか、小学校が吾北へ統合されるという、一時期そういう噂が僕の耳にも聞こえてきたという、そういう事はあると思っていましてたけど、そういうところで保護者の方のお声があるということですね。

山本委員長：私が一番心配するのは、子供さんたちにとってこの会議が必要なのか。精神的にと心理的に子供さんが不安定な状態じゃないわけです。

教育長：ここで書いてあるのは、開かれた学校づくりをやっている各学校の取り組みは充実したものであると書いてあるけれど、そこは充実してるけれど実際には子供さんのために思ったら、子供さんの立場になったら必要なのかなと、保護者がそういう必要性を感じているのではなくて逆に会をすることによって統合されるのではないかという心配もあるという思いがあるのではないかなと、そのあたりをもう一回洗いなおしてみたらどうかと。ただやるだけではなくて。そうしたら教育委員会として僻地保育所を残しますよという強い口調でお話してあげる方が、保護者の方も住民の方も安心するのではないのでしょうか

次 長：すみません。先ほどの山本委員長からのご質問の5年続する保育士さんの見込みですが、18名の予定だったのですけれど、現在応募があっている方が10名という事です。
間違えました。訂正します。18名の応募があって、そのうちの10名が5年という事です。

山本委員長：全体的には何人。

次 長：32名の予算をとっています。

山本委員長：支援員さんですかね、短期で回転する方がいるという事ですか。
けれど5年が該当する対象者が18名いて、1万円のアップもかかわらず18名が18名全員応募がなかったという事は

次 長：短期という事ではなく常勤です、継続して雇用はしておりますが、32名必要なのですけれど、18名が合格してはいますね、そのうちの10名が5年という事ですね。なかなか応募がない状況です。

山本委員長：例年そのぎりぎりになって出てくる。いつまで申し込みはしていますか。

次 長：年間ずっと雇用の求人は出しています。臨時職員さんが足りない状態です。

山本委員長：それで、今32名いるのに18名しか応募してきてないといったって、後どうしますか。14名は。

次 長 : パート職員とかでカバーはしていきいますけれど、もっと雇用の呼びかけはしていかんいかんと思っています。

山中委員 : あの、本川地区の話に戻りますけれど、教育委員会が、僻地保育園は存続しますよという事は絶えず言ってますし、教育委員会も必ず向こうへ上がって行っておりますし、協議も開いてお互いに意見交換会もしておりますけれども、何故にそのような噂が出てくるのか、反対にこっちが投げかけたくらい、あのそういう噂というのは統合に移行するよというのをやはりこの危機感が生徒さんを、子供さんじゃなくて生徒、保護者の方がもう思い込みで先行して噂を流している部分もあるように思います。それと責任転嫁するわけではないのですが、本川の先生方が、土日になるとたえず下(しも)向いてる。これは、3人の地域の方からはっきり言われました。ついひと月にもまだなっていない位に。先生も金曜日から土曜日全部気持ちが下向いてしまっているの、生徒がわかってしまっていると、そのように言っています。そこらあたりの噂をする方を我々も気を付けて、教育委員会としてももうちょっと耕さなければいけないなど、もうちょっと上に上がる頻度を多くするとか、いかに本川を大事にしてるかという事をアピールする必要があるかと思っています。

山村留学生制度にしても、いろんなことでもやはりそこは特徴のある場所でもありますので、大切に育てていかなければいけないなと思います。

渡辺委員 : あの、教育の現場とか教育行政のいろいろな努力で中山間を何とか教育環境を守りたいとそう頑張ってお互い来たと思いますし、それから箱ものも統合をきっかけに新しく作ったりとかいろいろな投資もしてきました。で、しかし一方児童、園児児童生徒の減少はもうなんとも留めようがないと、いう実態の中で、今言われるような悩みもいろいろ出てきている。ただですね、私は後ろ向きだけではいけないので、そういう面では、もうどうやって児童、園児をふやしていくかこれが緊急の課題で、実は、あったわけです。

中山間で生まれる可能性は非常に少ないわけですので、結局つまるところはよそから連れてくるしかない。そのことを教育行政だけではもうかなり限界があって町の大きな柱として町長さんお願いしますという事を何度も申し上げてきたのですが、ちょっと具体的な事例を私、夕べもいろいろ考えて数えてみましたが、たとえばこれを参考に考えてください。

柳野という集落に私は住んでいますが、柳野は90戸200人弱の小さな集落です。私はそこへUターンをしてちょうどこの3月になって満10年になります。私のように定年退職をしてUターンをした人間、よそからIターンをしてき

た人間、この10年間にどれだけいるだろうとずっと数えてみました。私たち夫婦を含めてUターンが13名です。それからIターンが実は21名います。そんなにいるかと思われるでしょうが、実はいIターンの人を一人一人数えたら、一番多いのは一家5人で来たという人はいますが、それは都会から来たというだけではなくて、高知から来た、あちこちから来たがありますが、いろいろありますが、全部含めていわゆるIターンとして帰ってきたのが21名 います。合わせて34名、10年間で。それでこの中で子供が、私が10年前に帰った時には小学生たった一人になったねと、私が子供のころは児童は100名を越していましたが、いよいよ一人になったねと言って、その一人の子が中3で間もなく卒業します。ところが、その後IターンUターン、Uターンの場合大方が年寄りが帰ってきますけれど、中にはUターンの場合は年寄りが返ってきますけれども、中には嫁さん連れて帰ってきたというのもあったりして、子供が現在、中3が卒業する一人のほかに中3が1名、それから小学生が今1名ですが間もなくもう1名増えます。小学校1年生が今一人ですがIターンで一人増えます。それから一人柳野へIターンして生まれた子が、2歳の子がいます。それからもう一人この4月に2歳の子が入ってくる予定です。それを含めてIターン21名、Uターンが13名、つまりよそから来り帰ってきたりする中に、次の学校へ入ってくる子供たちが現実にはいます。つまり柳野のような小さな集落でも、そういうことが現実には起こる。

私が申し上げたいのはそのIターンUターンに行政がかかわってくれたのは、**藤倉**一家だけです。つまり協力隊として町が雇ってくれたのは、私の隣の家に住んでますが、これが新婚のカップルで、それで子供が生まれて、3名。それ以外はすべて柳野の縁続きであったり、柳野のわたしたちのいろいろな努力であったり空家の調査であったりいろいろなことで繋がりがつながりを呼んできているわけです。つまり私が申し上げたいのは、行政としてもう一つ積極的に移住対策ができないだろうか、しかも役場がやるのではなくて、役場と民間とがスクラムを組んでやらなければいけない。そのスクラムの組みようが弱いのではないかと、私は常々申し上げてきているわけです。

現場を知っている、現実を知っている地元の人間が役場とスクラムをしっかり組んで、情報発信なんかは役場は得意ですし、入ってくるあるいはその準備作業、来たものとサポートするのはやっぱり住民力ですね。そういう面ではもう一歩突っ込んでもらえないだろうか、そうやって教育環境を生かす、中山間ならではの教育を生かしていく為にはやっぱり一定の対策が必要です。統合した吾北小学校でも今年から複式が始まったと聞き非常にショックだったわけですが、できるだけこれも解消してゆく可能性が、可能性があるという事で発言させていただきました。

以上です。

町長：はい、ありがとうございました。

あの、地方創世の中で移住対策も項目にあげておきますけれど要するに仕事と雇用という面がIターンの場合にはどうしても必要になってきます。そういったものに行政も、特に中山間については配属を、職員配属をして気配りをしておりますけど、藤倉さん場合には地域支援としてお願いし、この制度もまだ続けておりますし、今度本川へそれも子育て家族が入ってくるでしょう。もう一人、今、面接してGOサインを出している方は給料はあって3年間で自分で自立してくださいよというところまでしかまだ行政はようやってないがです。ただ地域でどんな仕事があるのかというのがポイントです。藤倉さんはシイタケの方が専門であって販路も持っていたわけですからもう少しいいのですけれど、ただ、いの中山間が自然がいいとぽっと来ても仕事がないとだめなわけで、そのところを行政の中では地方創世でやりながら行政の中ではそしたら仕事は何があるのかという事でいろいろ議論をしているのです。当然教育を考える上では子供さんがいないといけないわけですから、その地方創世で人口を増やすのではなく今の者を一定にとどめるかという思いで今やっているところでございます。

渡辺委員：関連してもう一つ言っていていいですか。ぜひそういう仕事がないと山へ来てもいかんという点があってこれが本当は悩みです。

実際仕事があってきたというよりも、来てから仕事を見つけてやったというのが藤倉であり、ま、藤倉はシイタケをやりたいと目的は持っていましたけれど、それから上八川の小迫さんであり、それから本川の阿部ちゃんはワサビなどを中心に頑張っていると。つまり定着率も非常に良かったと、一期生はね、と私は思っているのです。

で、仕事をどのように作るかというのはもちろん我々教育行政の世界ではないですのでお願いしなくてはいけないのですが、ちょっと、こんな話がありましたのでぜひ聞いてほしいのですが、先だって10日ほど前に奈半利町の町長と副町長が我が家へおいでました。何をしに来たかというシイタケのことについて視察に行きたいと、私はもう引退モードですから駄目ですと断っていましたが、その流通も含めて、百姓を連れていくという事で11名、仲介したのが林業事務所の方ですけど、おいでて半日我が家で過ごして帰られました。11名マイクロでおいでてましたが、シイタケについてのことと、それをどのように売っていくか、私が経験したことをいろいろ伝えたという事だったんですが、そこで私が、ああそうかと思ったのは、単にしいたけをつくるだけではなくて、そのシ

イタケをふるさと納税のメニューの中に加えていく。そういう事業の一つとしてやりたいというグループを連れてきたわけですね。よくよく聞いていたらふるさと納税、一時的の町は全国トップだと胸を張っていたのですが、今はどうなのか知りませんが、奈半利町年間予算かな、財政が2億5千万とか町長さんが言っていました、その規模なのにふるさと納税が、実は今13億だそうです。で、いろいろな物産を売る。大方がお礼として返しているわけですが、お礼として返すという事は、税金を入れておいて地域の産業を興す。それに対して仕事ができるという、私も13億を超したという事は驚きましたけれども、つまりは仕事があって来るのではなくて、どうやって仕事をつくるかという事も含めた視点をとらえないと中山間はいつまでたっても疲弊だと思います。そんなことを最近感じました。

町長：奈半利町と四万十町には負けています。いのがだいたい1億5千万ぐらい。で、2/3は返していますので地産外商という視点で今やっているところでございます。

奈半利町と四万十町それといのの違いが魚です。今よい氷があるでしょう。けっこう鮮度の持たず。あれで都会へ送っても、本当に都会の方にとっては凄味がある。四万十町この間町長と話す機会がありまして、なぜ今四万十町が7億円も一気に伸びたのですかと聞いたら、鰻と米。米はTPPの絡みでいの奥から吾北までの零細農家の米を30kgを12,000円から14,000円くらいで購入してふるさと納税のお礼でやりましょうと、期間限定、新米の時だけという事でやったけどあまり農家が出してくれませんでした。つまりもう売り口が決まっているのです。JAに持っていったら6,000円しませんからJAには出していないみたいです。そういうのも分析しながら、やっていくという、それで今の行政としてお願いしているのは、森林組合であるとか連業態であるとか土木体であるとか吾北分校の卒業生をだいぶ雇ってくださりました。今年も、今年の3月に卒業する人も伊藤林業であるとか国友であるとかそれから中央森林組合であるとか、そういうところへ少しづつ、去年も雇っていただきましたけれど、出て行かさずに、いのへ若い人がいるという事も一つは視野に入れて、行政としては動いているのです。ふるさと納税、いの町で採れたものという事でやっていますので、ぜひともシイタケさんを参加をいただければ、

渡辺委員：参加してます。

町長：参加してますか。よろしくお願ひします。ただ鮎をちょっと昨年から手を付けたのですよ。仁淀川の鮎という事でやっていますけれど、四万十のうなぎに、養殖だ

けれども負けているのです。ネーミングに。そんなところです。

金子：他にございませんでしょうか。

山本委員長：3の学校事務の集合化、共同化。事務員さんの事務、そしてこういう事をやるという事は定数減となってくるという事があるのですけれど、人力的にはどうなんでしょうか。1校1名の事務員さんで。多いんですか、少ないんですか。

教育長：多い少ないという観点から分析したことはございませんけれども、県の配置というものがありますので、県は公立小中学校に各校1名の県職員を配置しております。ただ、減少傾向にあるというのは事実でございます、学級数がある一定の基準、たとえば長沢小であれば全学年で複式の3学級ですのでそこまで児童数が減っていくと事務職の引き揚げという形を今とられてますので、将来的にもいの町の事務職の減員は想定されているようです。

山本委員長：そしたら⑤メディアの関係で参観日等で保護者対象に実施したと有りますが、効果はどうですか。

次長：はい、保護者からのアンケートとかも学校へ取ってくださってまして、もっと早くこれを聞いたかったという声が多くあります。かなり効果はあっていると思いますので、大勢の中の一人だけが認識してもなかなか広がらない。やはり多くの方々がそれを理解していかないと広がっていかないというふうに思いますので継続してやっていきたいと思います。

町長：次のページは耐震改築等について。川内と八田、神谷という話でしたが、教育関係はこれですべてですか。

次長：あと天神保育園が残っております。

教育長：天神はちょっと、まだ地元がOKにはなっていないのですけど、今の警察庁舎にまず消防が入ります。警察が出ますので。それで消防の庁舎ができたらしき揚げます。そのあとを今ちょっと狙っているのです。天神の保育園もちょっと梁も傾いたり耐震補強しなくてはいけない、老朽化もしているという事で、あそこをちょっと狙うには狙っています。地元の話をしていませんので、教育委員さんは(49:47)意識して・・・。

次 長 : それからすみません、あと公民館とかの改修工事がこれから順次入っていくようになります。

山本委員長 : その下のはしの地域の託児ボランティアの確保は可能な状況である。そんなに多いのですか。

次 長 : そうですね、全部でグーチョキパーさんで10人、それから地域の、それより一つ下ぐらいの世代の方が、20人程度は来れる時に来てくださる、事業実施の時にですね、お母さんたちが講演会を聞くとかそういう時に子供さんを預かってくれるというような形で入っていただいています。

山本委員長 : 吾北、本川でもそういうボランティアの方がおいでという事ですか。

次 長 : 吾北、本川では・・・、これは子育て支援センターの方で、
: 伊野だけでしょう。

次 長 : 伊野だけです。
母子推進委員さんとかが保健福祉課の方では、ある一定確保はできていると思いますけれど、ただこの来年度からこの子育て支援の事業を充実させて、時間を何とか捻出して、吾北、本川の方にも出向いていきたいと、子育て支援センターの職員も言っています。

山本委員長 : 増加した場合に不足するというのは、伊野地区では何とかいくだろうが、吾北、本川をどういうふうに入れてますかという事。

次 長 : まずは母子推進委員さんにお声かけたいと思います。

山本委員長 : 次のページの子育て支援センター
効果があるのですか。

次 長 : これも効果があります。こちらアンケートを取っていますけれども効果があります。これは3回実施して、来年度は4回目になります。

山本委員長 : 下のはしの個別相談援助。職員体制整備。
どういった方が、どこがどういうふう整備していくのですか。

次 長 : 教育委員会のこれは少年安全対策係が主に取り組むところですが、児童虐待の対応とかが、現在、児童相談所の方が行っている業務が3年ないし5年以内に、市町村の方に業務が下りてくるという話を聞いております。
それに向けて専門的な方を町雇用とか、職員のスキルアップとかをしながら、複数名で対応していかなければなかなか今後は対応が困難になっていくという事が想定されます。こちらの方の記載しています。

山本委員長 : 県が下すのですか、市町村に。

次 長 : 県だけではなかなか追いつかない状態。

山本委員長 : 県ができないものを市町村ができるのか。

教育長 : この件は、先日新聞に載っていたのですが、児童相談所、28年度新規採用の社会福祉士、心理士と児童福祉士、その雇用6名、今県の尾崎知事の肝いりもあって体制整備を推進しています。

市町村については先ほど次長が説明したように3,4年5年の間に、いわゆる大きく対象ケースは増えてきますので、その分のケースごとに市町村に下してくる。結局は人が足りない。

県も人の関係、で民生児童委員会の方にもご相談をして、いわゆる民協が積極的に児童虐待とか気になるお子さんに関わっていこうという取り組みがプランができつつありますが、いかんせん個人情報部分が危惧、心配されておりますので、そこは慎重に見ながら町村の部局が民生児童委員会の方に情報を流しながら協力いただけるところはというところでの動きも想定しております。

ようは一人ではなかなか対応しきれないと、相談にしても二人体制で臨むのがベストであると考えておりますので、人的な状況はやむなしというところで、こういうふうな記載になっております。

日向委員 : 民生児童委員でさえも、要するに家庭のマル秘情報を知るわけで、あまり知りたくないという、それだったら民生児童委員さんをお受けできませんという・・・。

教育長 : 中にはそういうお話もあろうかと思いますが、我々委員会の方に聞くところによると、逆に行政から積極的に情報を流してくださいと。協力できることはやりますといった思いがつようございますので、今日はそこにお力添えをいただきたいなという思いです。

山本委員長：最後のはしのページの木の瀬の保育園。あれはどういうふうに考えていますか。
あそこも借地でしょう。

川村所長：はい、借地です。

山本委員長：どういうふうな予定ですか。

川村所長：昨年までは、地域の方が利用したいとか、いろいろあったんですけども、現在のところその声も聞かれなくなったので、総合支所長とも話はしている所なんですけれど、今のところ将来に向けては取り壊しが一番かとは思いますが、今の所まだそういう判断はできていないところです。

山本委員長：郵便局もあそこへ移りたいと言っていたけれど、今のところ利用方法はないよね。

川村所長：それとすみません、ただあそこができたのが50、ちょっと記憶の中では4,5年かなと思うんですけど、まだ補助金の絡みとかあるので、

山本委員長：まだのこっちゅう。

川村所長：はい、その辺の整理がつかないと、というところがあるかと思います。

渡辺委員：はい。

金子：はいどうぞ。

渡辺委員：関連してですが、特にご吾北に住んでいると住民がいつも見るわけです。閉校、廃校、廃園になったのが、そのまま朽ち果てているのを見るわけでいろいろチクチク私に言ってくる人がいるわけです。その度に私は所長に怒りというか思いをぶつけてみたり、又いろいろお聞きすると行政上の今、言われる返済金が残っているとか、いろんな絡みがあって、私たち素人では何ともならない世界を教えられるとしょうがないかなと納得をしてみたり、けれどそのことを同じように住民に説明しても、彼らは納得しない点もあったりして、非常に苦しい思いをすることがよくあります。

ただいまの時代ですので、いくつかの行政上の縛りはあるでしょうが、なおそれをどう打開して、堅い錆びついた扉をどう開けるかという事をお互い考えなければいけないと、いつも私は思っています。

つまり、私はそういう意味では何かアイデアがあったら使えるという発想ではなくて、地元で使いたい人は使い、使わない箱ものを使いたい場合にその制限をしていますので、そういうことを期待しても難しいので、私はそういう実情を発信したらどうかと、全国に、いの町にはこういう物件がこういう条件で貸せますよとか、あるいは売りますよとか、いろいろなことがあるでしょう。

蜘蛛の巣だらけ、草ぼうぼうの状態ををそのまま写真にとって自由にリフォームしてください、ここへ住んでくれたらタダで貸します、それは条件がいろいろやらないかんでしょうが、つまりそういう可能性を探る行動が、ごめんなさいね、鈍すぎるのではないかと、教育委員会あるいは行政全体も吾北総合支所も、つまりそういうものを興して、そのまま都会へ出すともの好きがおるんですね。

自分でリフォームしてやるからをもってこいの物件だと思う連中はいっぱい僕はおると思うんですがね。つまりそういう行動を起こしませんかと時々言っています。以上。

町 長 : あのを、補助金と言いますが、借金もしてやっている、そのまま置いていたら、交付金で交付税でいのの方に入ってきているのです。それを、はいこれを休園にしますとしたら、今まで借っていたものを戻さないといけない。そこがやはり財政の方もつらいところなんです。
まあ、いろいろなアイデア、ありがとうございました。

日向委員 : ええと、保育施設の耐震補強ですが、川内が耐震補強をするとき八田でしたかね、その子供の通園の手段ですね、人数が少ないのでバスを走らすとか、あるいは保護者をお願いをして自前で行ってもらおうとか、いろいろあると思いますが、短期間であるという条件の中で、どのような輸送手段があるかという事。お考えがあれば、

次 長 : 現在、担当の方から話を、こうしたらどうかという提案をしてもらっているのが、先ほど委員がおっしゃったように、バスでその期間、往復を、送り迎えをするというようなことも言っておりました。ただ、早出とか、遅出とかの方もおいでますので、そういった方々には保護者のご協力をいただかなくてはいけない場合も出てくるであろうと、そういった事をこれから具体的に保護者の方々にも説明しながら、につめていかななくてはいけないのかというふうに話をしているところです。

ただそういったバスといったことも、町内共有の中でもきちっと話し合いをしながら進めていきたいと思っております。

教育長：基本形は川内集合でバスへ乗せて、送る。向こうで乗って川内で解散。基本形は。

日向委員：これは職員も一緒ですよ。その期間はね。

次 長：はい職員も同じです。

金 子：はい、そうでしたら、その他の事項に移ります。

次 長：それではその他の事項ですが、菊池先生を来年度お迎えして、総合戦力の事業に取り組んでいきたいと思っております。

ここにですね、イメージ図、1枚大きなカラー刷りのものにして準備いたしました。

現在教育委員会が、しっかりと土台となって、柱となって教育をしっかりやらないと地方創世にも結び付いていかない。これを売りにして全国に発信しながら移住、定住を呼びかけるわけですから、教育の方をしっかりしようという事で、大きなハートの中で菊池学園をこのように動かしていきたいという事を表したものです。

で、菊池学園では、どんなことが行われるかといったところで、丸い楕円が4つありますけれども菊地学級、これは学校、子供たちを対象に授業を行っていたり、先生の授業を見ながら指導していただいたり、それから先生への巡回指導をしていただくといったものが菊地学級。

それから、その右横の青い長い、ブルーの長いありますが教師塾菊地寺子屋、これはですね、学校の先生方を対象に、夜間に先生方の寺子屋を開催したいと思っております。教員保育士等を対象として、町内勤務の教員とそれから町内在住の教員の学習会、そういったものをしていきたいと思っております。

その下に大人版菊地学級とあります。上の菊地学級は子供版ですけれども、下が大人版で、地域の方々のセミナーなどを開催してですね、大人の方々も自尊感情、自分も好き人も好き、人を褒めようという、認めていこうというような働きかけをしていきたいと思っております。

この中で菊池先生を主人公とした映画、ドキュメンタリー映画もですね、やっていきたいと思っております。上映したいと思っております。

そしてその右横の、教師の卵セミナー、これは大学生等を対象にして、教員志望の学生さんなどを呼んで、これは町内外関係なく、全国まで発信して全国の大学

のゼミとかにも呼び掛けてきていただいて、いの町でこう言う事をしているからぜひいの町に来ないか、という事を働きかけていきたいと思っております。内容としてはこういう事を教育の中ではやりたい。それを外向けに発信していくというイメージですのでまたご覧になっていただきたいと思えます。

それからA4の2枚のホッチキス留の資料も準備しております。

これが今、いの町教育委員会が菊池学園の取り組みについて思っていることをまとめ上げているものですので、またゆっくりとご覧になっていただきたいと思えます。

そして、後、学校の今の状況をお知らせしておきます。

教育委員会の定例会の中でもこういうお話はさせていただくのですが、今日は町長も同席の総合教育会議で、いじめとかいったような緊急事案が発生した時に、緊急的にこの教育総合会議は開いて、情報の共有をするとゆう、それから動きを確認するという事も総合教育会議の一つの目的であります。現在そういう事にはなっておりませんが、ちょっと気になる事案がありますので、事前にお伝えしておきます。

伊野中学校の生徒さんですけれども、中3の女子の、女子なんです。リストカットをですね小学校の時からする癖が、癖といいますかそういった事を行う子供さんがいました。小学校の時の、小学校6年生の時に、その時はまだ定規、定規で手首に傷を、強くしながら血がにじむのを見ては感情に浸っていく。死ぬというところまでは思っていないけれど、というような状態でした。

中学校に入って1,2年と落ち着いていましたけれども、またこの卒業の時期になってですね、また自傷行為がはじまりました。今度はカッターナイフ、カッターとかですねを使って手首を切っています。もう数十本手首に傷がある状態です。

家庭的な背景もかなりあると思えます。母親父親との関わりといったものもあると思えますが、とても自分を責める子供さんでどうせ自分が悪い、自分が悪いと自尊心が本当に低下しきっているような状況の子供さんです。

これからまた受験といった事にも、受験の時期、それから友達との別れで自分をわかってきている先生との別れ、いろんなものがこれから自分にふりかかってくる、そして新しい生活がうまくやっけていけるかどうかの不安も大きいと思えます、が、この子は授業中に抜け出してはトイレに入って自傷行為をしたり、カッターでですね、手首を切ったりすることもあるので先生方は、3年の先生方はこの子が授業から離れると、トイレに行くとトイレの前で待つ、長ければ声をかけるというようなことも行っています。

先日この子供さんが、メールで友達に明日学校から飛び降りをするというメールを流しました。その時には教育委員会と学校で11時半ごろまで、学校は保護

者の所に行ってお話をさせていただいて、私たちはその結果を待ってこれからどうするのか、これまでの状況の把握といった事で11時半ぐらいまで状況の確認をしました。

それから保護者の方にも働きかけをして病院に繋げ、医療機関にですね繋げるような取り組みをしているところです。

万が一のことというのは絶対あってはいけないと思って、学校と教育委員会ではしっかりとその子供さんの状況を、今、把握確認をし見守りを続けているところですので、いまこの場で報告をさせていただいておきます。

南小学校の方がですね、今、長期休業に、精神的なしんどさから長期休業に入っている先生が2名いましたが、1名が今復帰プログラムをはじめようとしている所ですね。

で、4年生、あ、5年生の方の保護者の方から不安を感じておりまして、先日保護者会を開いて今の学校現状をお伝えしました。

大変すばらしい先生で、学校も頼っていたところがあったかもしれませんがけれども、今、先生の心の支えといったところも学校はやっておりますし、6人の先生方がその教室を守ろうと、いろんな授業によってですね、先生は入っています。ただ、保護者にすると一人の先生で子供たちを見てほしいのに6人の、6人がかりでというところに又不安もありますけれども、そこの共通の、皆さんのいろんな情報共有をしながらですね、より良い子供たちへのかかわりを持っていくように学校の方は一生懸命取り組んでいただいております保護者の方もご理解いただけてはいるところです。一時は学級崩壊というふうに保護者の間で広がっては、広がり始めていたので、早期に学校の方は保護者会を開いたと、いったような状況になっているところです。

以上ご報告です。

日向委員：中学生ですけれども、先だってテレビで、いわゆるそれは本人の中にある病的な要因も考えなくてはいけないというような情報の報道もありましたけれども、そのリストカットに至る内面的な要因、そういった診断はうけられていますか。

次 長：これからです。

日向委員：これからですか。

あの、一番つらいのは僕は本人だと思っています。だからその、本人が解決しえないところもあろうかと思うし、病的な要因も探り出してですね、やっぱり、それに見合った対処の方法を考えていく。

もちろん見守りは大事です。それが大事でそういうところでも考えていく必要

があるのかなというふうに思っています。

山本委員長：積極的に、早期に受診を、機会を与えてあげないと。カウンセラーであるとか精神科医であるとか。

次 長：現在、のぞみ教室の教育相談員が話を聞いてくださったりしています。お母さんとも面談をして、今週病院に行こうというふうに考えているというお話を、校長から先週聞いております。

町 長：はい、菊池学園はかなり期待しています。
菊池学園だけに期待しているのではなくて、やっぱりこう、妊娠をして母子手帳を交付した時から保健師さんがお付き合いをしている。それで保健師2名余分に採用して14名の保健師へ、もう2名追加採用します。
そういうにでお母さん方に妊娠出産育児の不安を少しでも和らげるための施策を今、ほけん福祉かなり力を入れています。
それで一定時期になると教育委員会の分野が出てくるという事になる。
でも、少しでも人口が増えればという思いも持っているところです。

金 子：よろしいでしょうか。そうしたら議事が全て終了しましたので、これを持ちまして第3回いの町総合教育会議を終了させていただきたいと思います。
本日はどうもありがとうございました。

：活発なご意見ありがとうございました。